第 97 回　企業活性化研究分科会・議事録

＜第九十七回 2017 年 5 月 20 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）＞

参加者：井端、大野、木村、但野、宮川、山本（真）、山本（洋）（7 名）

1.　テーマ：マーケット・シェアと企業業績の関係について

・報告者：木村充宏　　・配付資料：12 枚

・報告内容の要旨

本報告は、ランチェスター理論を用いてマーケット・シェアの高低と企業業績の関係を具体的に明示したものである。分析対象としてシェア争いが顕在化している 6 業種を選択し、各業種における No.1 企業と No.2 企業の 2 社をサンプルとし、シェアと業績に関して両社間の比較を行った。

シェアの高低と関連があると考えられる売上高原材料費率、棚卸資産回転日数、売上債権回転日数、売上高広告費比率 4 つの財務指標を用いた分析の結果、概ね売上高原材料費率、売上高広告費比率は No.1 企業の方が低く、棚卸資産回転日数、売上債権回転日数は No.1 企業のほうが短いことが明らかとなった。また、シェアが 2:1 の場合は、利益においては、さらに差が広がりシェアの二乗の 4:1 程度になることもわかった。

今回の報告は、企業開示は単体中心、事業の多様化もそれほど進んでいなかった 25 年以上前のものであるため、現在でも同様な分析が可能か、可能な場合、同様の結論が出るかの検証が必要となる。

2.　テーマ：企業では大きい方がなぜに勝ち組になるかの数学的証明

・報告者：山本洋信　　・配付資料：1 枚

・報告内容の要旨

本報告は、規模の大きい企業が競争により強く、勝ち組になる理由を数学的に証明したものである。その理由は投下資本が大きい企業のほうが、レバレッジを利用して単価を低くすることができるため、ライバル企業の販売額を常に下回る価格で商品を販売することができるからである。結果として、販売価格競争に常にかつことができ、獲得利益を更なる規模拡大のための原資とすることが可能となる。企業がライバル企業以上の利益額を獲得することは市場社会の競争原理である。しかし、この証明は商品が常に完売することを前提としているため注意が必要であると報告した。

3.　テーマ：　「日本企業の ROE の構造に関する研究」に関するコメント

・報告者：山本洋信　　・配付資料：12 枚

・報告内容の要旨

本報告は、日本経営分析学会第 34 回年次大会自由論題報告にて発表された、古山徹氏の『日本企業の ROE の構造に関する研究』に対して、若干のコメントを行ったものである。まず、ROE の計算過程において売上高純利益率を用いていることに疑問を投げかけている。その理由は、当期純利益と売上高には直接的な対応関係が存在しないからである。同様に用いられている総資本回転率を分解すると、1÷（負債 / 売上高＋負債＋売上高）になる。しかし、負債 / 売上高と、負債＋売上高の回転期間は財務指標としての意味が示されていない点を指摘した。そして財務レバレッジは、資本と負債の直接的な関係を示す機能を有していない財務指標であることを指摘した。それによって、この式が成立する条件を明示することは必要不可欠である。しかし、この計算過程においては明確にされていないため、不明確な式であると推察した。

4.今後の予定について

・2017 年 6 月 24 日（784 教室）　浜井産業の再生状況報告　　－ 渡辺先生

キャッシュ・フロー分析の問題点－ 井端先生

（文責：山本真也）